

令和5年6月9日

立入が丘小学校3年生「総合的な学習の時間」

住吉神社調査隊の質問事項に対する説明

【火祭りについて】

質問：火祭りはいつから始まったのですか？なぜ毎年行っているのですか？

回答：約800年前からだと言われてはいますが、大昔の事であり、はっきりと書いたものがないので、確かな事は分かりません。

今から約800年前の鎌倉時代に、土御門天皇という人が重い病気になられてなかなか回復しませんでした。

なぜだろうと皆で考えていた時、一人の村人が「天皇の病気は、この地にすむ大蛇が災いしているからだ。」と言い、大蛇を焼き払って退治したところ病気が治ったと言われてはいます。

そこから、年の初めに、大蛇に見立てて造った松明（たいまつ）を燃やして、一年の無病息災や家内安全を祈るようになったと伝えられています。

今では滋賀県選択無形民俗文化財にもなっている、800年以上続く伝統行事であり、この立派な伝統行事を次の世代へ引き継ぎ、後世に残していくために毎年行なっています。

なお、大蛇を焼き払って退治したとき、頭の部分が浮気に、胴体が勝部に、しっぽが大津の瀬田に飛んだと言われており、住吉神社では頭の部分を燃やしています。

今では、瀬田の火祭りはなくなっており、住吉神社と勝部神社で続けています。

【住吉神社について】

質問：なぜ「すみよし」神社という名前なのですか？

回答：全国に2000以上の住吉神社があるそうですが、それらの総本社が大阪市住吉区にある住吉大社です。

住吉大社には住吉三神が祀られており、浮気の住吉神社でも同じ神様を祀っています。

住吉三神とは、底筒男命・中筒男命・表筒男命の三つの神の総称で、「海の神」「お祓いの神」とされています。

この「住吉」は、スミヨシと読みますが、古くは「スミノエ」と読みます。

